

この台詞 グッとくる!

今年もやります、読書週間特別企画！本好きなあなたに、篠崎図書館全スタッフがシビれた名ゼリフを場面とともにご紹介します！この秋の本選びはゼリフからいかがですか？

(凡例)

「書名」 著者名 出版社 請求記号 所蔵館

表紙

台詞を受けての自分の思い・感じたこと

※台詞を言った時の場面

「グッときた台詞」

「やまない雨はない」
倉嶋厚著 文芸春秋 B916ク 篠崎所蔵



いい歳のおじさんが、伴侶の死でぼろぼろです。しかし立ち直ります。謙虚にも「知らず知らずのうちにやんでいた」と言うのです。元気になられてよかったです。私は頑張ってちょっとだけ夫より長生きしようと思えます。

「私の命を吹き飛ばすほどの勢いで襲ってきた突風はいつの間にかやら通り過ぎ、果てしなく続くかと思われたしやぶりも、知らず知らずのうちにやんでいました。」

※全てにおいて頼り切っていた妻の急逝。自分を責め、うつ病を患いどん底まで落ちた気象キャスターの筆者が、多くの人に助けられ、生きる力を取り戻していく日々を綴ります。そのプロローグに。

「柳生宗矩」
山岡荘八著 講談社 BFヤ1-4 篠崎ほか所蔵



戦国時代を生き抜いた猛者達の前で、ひるまずに堂々と啖呵を切れるその度胸に感服しました。さすが生まれながらの将軍・家光公。恐れ多いことですが、小心者の私としては爪の垢を煎じて飲ませて頂きたいくらいです。

「――これから天下のことは一切、家光が下命する。家光の天下に不服の者あらば、即刻国もとへ帰って謀叛の支度にかかるがよい」

※三代将軍・徳川家光が諸大名を集めて挨拶した時の台詞。

「とんび」
重松清著 角川書店 Fシ 篠崎ほか所蔵



不器用ながら幼い1人息子を必死で育てていく父親と、それを優しく厳しく見守る人達。愛情を上手に表現できず、逆の表現になったり、家族の暖かさや難しさがたくみに描かれ、通勤電車で涙を隠すのに苦労した本です。

「お父さんのこと、怒ってもええ、嫌うてもええし、恨んでもええ、ほいでもわしはおまえを育てる。おまえを一人前にしてやらんと、お母さんに……なんのためにあんたが生き残ったん、いうて……叱られてしまいがな……」

※最愛の妻を自分の職場での事故で亡くした男。朴訥な彼が残された息子に飾らぬ表現で語りかけた言葉。

「吾輩は猫である」
夏目漱石著 新潮社 BFナ 篠崎ほか所蔵



人の世はとかく悲しいもの。だからこそ、自分の身の上を笑い飛ばせる人になりたいものです。この小説の基調でもある諧謔の精神を携えて。

「呑気と見える人々も、心の底を叩いてみると、どこか悲しい音がする。」

※主人・苦沙弥先生の家に集まる、お馴染みの門下生たちの取りとめのない談義を傍で聞いている吾輩(猫)のつぶやき。

「燃えよ剣」
上下巻 司馬遼太郎著 新潮社 BFシ1-2 篠崎ほか所蔵



土方歳三の覚悟と生き様が何える言葉だと思えます。ただひと言、「格好良い」です。この後、沖田は「命あるかぎりついていきます」と答えるのですが、その場にいたら私もそう言ってしまいますね。

「前略(こん)にちんちんたるまで、新選組の組織を守るためと称して幾多の同志を斬ってきた、芹沢鴨、山南敬助、伊東甲子太郎……それらをなんのために斬ったかということになる。かれらまたおれの跡に伏すとき、男子としてついに死んだ。そのおれが……でぐらつては、地下でやつらに合わせる顔があるか」

※大政奉還後、「これからどうなる？」と聞いた沖田との会話の中で、土方が言った台詞のひとつ。

「マローンおばさん」
エリナー・ファージョン著 ぐくま社 93フ 中央ほか所蔵



貧しくとるに足らない人と扱われるマローンおばさんですが、ただ自然に、やってくる動物たちを受け入れます。あるものを分かち合い、共に居られることを喜ぶ。小さな挿絵もいとおいしい、静かに満ち足りる一冊です。

「あんたの居場所くらいここにはあるよ」

※一人暮らしのマローンおばさんのもとを次々と訪れる、疲れて飢えた動物たち。おばさんが動物たちを家に招き入れるときに言う言葉。

「三角帽子」
アラルコン作 岩波書店 B963ア 西葛西所蔵



不埒な夫に投げつけたキツイ一言に、心の中で喝采をあげました。この小説が発表されたのは1874年のスペイン。昔の女性って強かったんですね。格好いいですが、私自身はこんな台詞とは縁のないように暮らしたいです。

「貴方はこの先何千年生きていらつしても、今夜私の寝室で起つたことは御存じない筈です。(後略)」

※水車小屋のおかみさんと浮気しようとしたんだ市長が相手にふられ、そのことが自分の妻にばれてしまふ。しかも、自分達夫婦の寝室から現れたのは水車小屋の主人！まさか二人は仕返しに浮気をしていたのか？と心配で青くなる市長に、夫人がこう言い放った。

「ロックの名言」
シンコーミュージック・エンタテイメント 764ロ 篠崎ほか所蔵



本書に数多くある名言の中から、音楽の可能性について言及した発言。この後「革命は一人ひとりの心の中で始まる」と続くとおり、「音楽がもたらすのは、人の変化である」という事を、彼らしく言いまわしている。

「音楽で世界を変えることはできない」と言っている自分がいる。でも曲を書くたびに、もうひとりの自分が「でも世界を変えたい」と言っているんだ

※一九八三年、音楽誌の取材にて、アイランド出身のロックバンド「U2」ボノの言葉。

「感傷の街角」
大沢在昌著 角川書店 BFオ 篠崎ほか所蔵



作家・大沢在昌のデビュー作にして原点、探偵・佐久間公の初登場作。時代背景は違えども、センチメンタルさは変わらない。このセリフの真意は読了すれば分かるはず。ハードボイルドとはカッコつけた優しさだと知った物語。

「彼女は結婚して、カナダに移住していたよ。いいところのお嬢さんだったんだ。(後略)」「そうか」

※失踪人調査のプロ・佐久間公が、プライベートで受けた依頼を果たし、依頼人に結果を報告する場面。そしてこのセリフの裏には……。

「シモンのとうちゃん」
(「モーパッサン短編集2」所収)
モーパッサン著 新潮社 B953モ2 篠崎ほか所蔵



ありきたりなセリフですが、物語を読み進み、最後にこのセリフが出てくると、途端に平凡なものではなくなります。必死に、少し誇らしく言っているシモンの姿を想像すると、私はどうしても、切ない気持ちに……。

「ぼくのとうちゃんはな」明るい声で彼は言った。「鍛冶屋のフリッツ・レミーだぞ。そして、ぼくをいじめるやつは、みんな耳を引っぱってやると言うたぞ」

※「父なし子」と虐められていたシモンにとうちゃんができた時、学校の皆の前で彼が言ったセリフです。

「中世の秋」
ホイジンガ著 中央公論新社 230ホ1-2 篠崎ほか所蔵



中世という厳格な社会秩序と生活の混迷をはらんだ二重苦の時代にあっても、いや、あるからこそ、人々はささやかな美、幸福、楽しみを求めていたという、人の生の普遍性に思いを馳せずにはいられません。

「人間にわりあてられてる生の幸福、のびやかな喜び、甘い憩いの総量は、時代によってそう差があるわけではない」

※中世後期のヨーロッパの生活を幅広く考察した、オランダの歴史学者ホイジンガの言葉。

「飛ぶ教室」
ケストナー著 光文社 B943ケ 篠崎ほか所蔵



児童文学として知られていますが、子どもだけに楽しませてはもったいない作品です。五人の少年を取り巻く大人たちの魅力的なこと！それにしても、本物の大人なら何を相手にするのでしょうか。私はまだまだ摸索中です。

「(前略)金や、地位や、名譽なんて、子どもっぽいものじゃないか。おもちやにすぎない。そんなもの、本物の大人なら相手にしない。」

※絶望から立ち直り静かな生活を望む男が、自分を案じる親友へ言った台詞。

「おとうと」
幸田文著 新潮社 BFコ 篠崎ほか所蔵

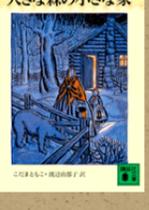


「不良」のレットルを張られ、自暴自棄となって苦しむ弟の碧郎を、無償の愛で支え続ける姉げん。気丈に振舞う姉の「哀しみ」が伝わってきます。「家族」とは何かを深く考えさせられる作品です。姉弟愛に感涙です。

「先生はいつも白いもの見なれていらつしやるけど、白つて色は病人や家族には、どんな感情を起させるか御存じですか？ 無情にひとしい色です」

※結核で入院した弟の主治医に、主人公げんが突っかかる場面の台詞。

「大きな森の小さな家」
ローラ・インガルス・ワイルダー著 講談社 B933ワ1 篠崎所蔵



父さんの狩によって食肉を得ていた一家が、やっとそれを手に出来そうだったという時に、殺されるだろう鹿や、撃てなかつた父さんを思いやれる言葉を子どもながらに口にできるやさしさに心を打たれました。

「あたしたち、バターつきパンを食べればいいもの」

※インガルス一家は春から新鮮な肉は食べないかった。冬支度をする頃、鹿の塩なめ場に行った父さんが、親子連れの鹿などを見つけたが、立ち去るまで見つめていたという話をしたとき姉のメアリーが言った言葉。